

札幌 → 層雲峽

短食 2 の 2

7月19日(日)

今日も又、雲深きホワイトグレーの空のもと。ユースホテル円山ハウスを立ち、札幌市内見学へとバスは立つ。

＊時計台の鐘が鳴る。大空遠くほのぼのと 静かに夜はあけてゆく……………＊

写真でよく見る札幌の時計台。右手にチラリと見たのみであるが、印象に残る異国的な建物であつた。鐘の音が聞けたなら、ロマンチックな印象も残つただろうに。次いで北大の植物園、そしてエルムの学園、クラーク博士で知られる北大へ。ここでは立入り禁止を破つてポプラ並木へ、いそいそと。講義の催中に観光バスで、ガヤガヤとこられては、たまつたものではない。禁止であるのは当然の事。であるのに好奇心にかられてか、それとも遠々と続くあのポプラ並木を見たさにか？

しかし、行つて見ると、聞くと見るでは大違い。とまではゆかないが、数える程のポプラの木々、ここぞとばかり写真を撮る人、又とられる人でごつたがえし、かえつて立入り禁止を守つた方が……………とも言えない事はないようであつた。町行く人も様々な服装で、夏である事を忘れさせる町である。実際気温は20℃に達していなかつたと思う。

一向に天気は回復しない。それに又今日は不運に日曜日であつた。それゆえ雪印乳業は休業、アイスクリームもダメになつた。この時の皆の嘆きようはすごかつた。

札幌の郊外、西南に位置する羊ヶ丘展望台にやつてきた。晴天ならば札幌の町も見える様な高台の牧場だが、この日は霧に包まれ、はだ寒い程、冬の朝もやを思わせる様だつた。残念な事に、ここにも日曜日がたたつてか、羊には全くお目にかかれなかつた。余りの寒さに、バスの中でお弁当を開く。あついお茶のサービスに少々気を直した。

これより石狩川に沿い一路層雲峽へ。

7月20日 月曜日(6日目)

日本最大の面積を有する大雪山国立公園。そこに属する溪谷・層雲峽は他の観光地とちよつと美を異にする雄大な所である。断崖・絶壁にきざまれた、自然の壁とでも言うのか、まったく自然のなした巨大な岩の彫刻である。見れば見る程自然美の偉大さ、巧妙さにお

どろかされる。

行けども行けども、巨大な彫刻の壁は続く。バスの中から右に左、左に右にと回転よろしく首と目玉の体操をしたが、この時ばかりは2本の足で歩きたかつた。

途中、巨大な岩間より落下する雄々しい流星の滝、しおらしく流れ落ちる銀河の滝に見つけた。次いで大函。

平地から垂直にそそり立つ岩壁に包まれたここは、大きな箱の底に居る様であるところから大函というのであろうか。岩の色のしぶさがとても印象的であつた。

小函を通り、しばらくはバスの中、途中、美幌で昼食をすませ、一路網走へ。

旅行中では最も北の、刑務所で知られた網走にやつて来た。お天気の方は夏らしい青さが見え出した。

広い草原には牛や馬が放たれ、乾そうした快よい気候である。牧歌的などかさとは、この事かと思つた。しばらくすると左手に青く光つた海が見えてきた。今までの緑の匂いとは別に青い湖の香りである。海岸づたいにバスは走る。そして、今は満開も終りをつけた浜なすの咲く原生花園についた。

原生花園の後には、オホーツク海が空に向つて広々と開けている。

力強くおしよせる砂浜の波に足を洗い、貝を拾い、遠く見知らぬ国の香を包んで吹いてくる（と思われる）快よい潮風に旅の疲れをいやした。再びバスに乗り込み、今来た道をひきかえし、途中、夕暮れの天都山に登り、網走湖への帰路を急いだ。

層雲峡から美幌，原生花園，天都山を経て網走へ

大 食 3

7月20日

今日まであまりお天気に恵まれなかつたが、昨夜作つたてるてる坊主のお蔭か、今日は割合よく晴れている。午前9時、昨晚先生方と重心にかえつて大いに騒いだ層雲閣を出發。

今日は、美しい景色が多いコースなので楽しみである。しかし左右に移り変わる断崖とガ